

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
（分担）研究報告書

新興感染症およびパンデミックに対応する検案・剖検体制の確立のための研究

研究分担者 池松 和哉 長崎大学医学部 教授

研究要旨

本研究では、法医剖検例および死体検案事例を通じて COVID-19 陽性者の死因を明らか明らかにするとともに新興感染症やパンデミック発生時における当該感染症の感染情報の収集やその活用方法の構築を目指すものである。本年度は COVID-19 陽性の異状死体および COVID-19 ワクチン接種後の予期せぬ死亡事例について取り扱いについて検討した。

A. 研究目的

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の拡大により、COVID-19感染の有無と死因との関連性を明らかにすることが必要である。本研究では、法医剖検例および死体検案事例を通じてCOVID-19陽性者の死因を明らかになるとともに、新興感染症やパンデミック発生時における当該感染症の感染情報の収集やその活用方法の構築を目指すものである。

B. 研究方法

法医剖検例および死体検案例において、COVID-19の抗原検査またはPCR検査を実施し、未診断のCOVID-19陽性患者を抽出することで、医療機関受診者以外のCOVID-19感染拡大の実態を明らかにする。さらに軽症または中等症のCOVID-19感染者で自宅、宿泊施設等で療養中に死亡した方等について、法医解剖による詳細な死因究明を行い、日本人における重症化危険因子や肺炎以外の心筋炎・血栓症等の合併症率を検討することで、COVID-19感染死の病態を解明するとともに、適切な予防策や治療戦略を提供するための基礎的データを収集する。さらに、日本の剖検体制の実態調査及び課題の抽出を行い、新興感染症およびパンデミックにおける解剖実施体制の見直しに関する提言を行う。

（倫理面への配慮）

データ収集については、個人情報や個人が特定できるような内容は含まない。

C. 研究結果

本年度は、法医解剖および死体検案事例について COVID-19 抗原検査を実施したところ、検案事例において抗原検査陽性事例を 1 例認めた。具体的には、CT 検査にて末梢側優位に非区域性のスリガラス陰影が多発し、CRP は 10mg/dl 以上であった。さらに、CT 検査にて膵炎を疑う像があり、このために DIC を続発し、死亡したものと考えた。

また、COVID-19 ワクチン接種後の予期せぬ死亡事例については 2 例で法医解剖を実施した。

D. 考察

COVID-19 陽性の異状死体の法医剖検例は対象とする事例では認められなかった。しかしながら、法医剖検例において抗原検査を実施することで、異状死体から見た当該地域における COVID-19 の感染状況を把握する上で、有用であったと考える。特に、コロナ感染症にて急性膵炎の合併症例が報告されており、我々の事例においても CT 検査で急性膵炎が疑われており、これまでの報告と矛盾しないものと考えた。COVID-19 ワクチン接種後の予期せぬ死亡事例については法医剖検例 2 例を経験した。現時点で明確な因果関係のある事例はないが、今後、剖検事例については解剖所見の詳細な検討を進める必要があると考える。

E. 結論

COVID-19感染死の病態を解明するとともに、適切な予防策や治療戦略を提供するための基礎的データを収集が必要である。さらに、日本の剖検体制の実態調査及び課題の抽出を行い、新興感染症およびパンデミックにおける解剖実施体制の見直しに関する提言を行うために、感染事例の剖検の実施に際して必要なハード面での感染防御設備の設置状況の調査をすることで、今後の新興感染症およびパンデミック時の地域における解剖体制の構築の基礎データとなるものとする。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

3. 関連した実務活動

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

該当なし。